

小児科この1年

小児科医長 平野 至規

診療スタッフ

平成19年1月、室野晃一診療部長以下、佐藤敬、椎葉豪、大田圭の4人体制で始まった診療体制は、4月に士別市立病院小児科との集約化に伴い、平野至規（士別市立病院から）、佐々木彰（旭川肢体不自由児総合療育センターから）、新宅茂樹（遠軽厚生病院から）の3人が加わり7人体制となりました。12月に新宅茂樹が旭川厚生病院に転出しました。

外来（名寄市立総合病院）

一般外来は基本的に毎日午前・午後とも2診体制で行っています。また1カ月健診と予防接種外来を従来どおり1～2回／週行っています。

専門外来は旭川医大から出張していただいた神経外来（田中講師）、心臓外来（真鍋助教）、内分泌外来（上田医師）を4月以降も継続し、さらに士別市立病院との集約化に伴い4月から神経外来（高橋助教）が加わりました。田中講師の神経外来は佐々木に移行する形となり、8月で田中講師の出張は終了しました。現在神経外来は旭川医大の高橋助教と佐々木彰で担当しています。また、6月からアレルギー外来（平野／佐藤）が始まりました。

外来（士別市立病院）

集約化した4月以降、士別市立病院小児科の一般外来を佐藤（月曜日）、平野（火曜日）、太田（水曜日）、佐々木（木曜日）、椎葉（金曜日）の5人で担当しています。旭川医大からの専門外来は終了しましたが、1カ月健診と予防接種外来、アレルギー外来は継続しています。

救急外来

4月の士別市立病院との集約化に伴い小児科を24時間体制としました。小児科スタッフ7人で日当直を行い、24時間体制を維持しています。

病棟

病棟は3月までは主に椎葉、太田の2人で診療していましたが、集約化に伴い4月からは佐々木、新宅の2人が加わり主に4人で診療にあたっています。

平成19年の入院患者数は1003名（前年より-166名）で、一般小児763名（-214名）、新生児240名（+48名）でした。

乳幼児健診

各地方自治体の乳幼児健診の担当は、3月までは名寄市、名寄市風連町、下川町、美深町の4カ所でしたが、4月からは士別市、剣淵町、和寒町の3カ所が加わり7カ所となりました。集団予防接種なども加えると10～15回／月ほど担当しています。

学術活動など

長年にわたり行ってきた士別市立病院小児科との合同抄読会は集約化と共に終了しましたが、現在は当院小児科単独で抄読会を開いています。

論文は2編、学会・研究会での発表は7題、その他講演会での発表は6題ありました。また、佐藤は名寄のFM局「Airてっし」でこどもの病気などに関する番組を1回／週担当しています。

おわりに

4月に士別市立病院小児科との集約化が行われ24時間体制の小児科がスタートしました。しかし、小児科による当直体制が始まっただけで病院の体制は従来どおりの部署が多いかと思えます。

ご存知のように小児医療は看護スタッフをはじめCo-medicalの方々のご尽力なくしては成り立ちません。小児科24時間体制が病院各部署およびスタッフの皆様の負担をさらに重くしてきたかもしれませんが、今後ともご協力のほどよろしく願います。

小児科としましては、この体制を維持することで地域の子どもたちにとって、また家族にとって、いつでも安心して受診していただけるような診療を提供できるように誠心誠意努力していきたいと思えます。